

## 5 将来を見据えた人材育成

具体的に何をやる？

- 地域産業の振興などを目的に、高い技術力を有する津山高専との連携協力をより一層進める
- 美作大学と連携し、大学間や地域間の競争に打ち勝つ創意工夫や大学資源を活かした地域課題解決について改めて共同研究を行う
- 学習環境の充実を目的に、すべての公民館に公衆無線LAN・Wi-Fiを整備

議会での声

**問** 魅力ある大学について美作大学と共同で研究するとは、どういうことか？

**答** 育成人材や経営課題だけでなく、大学資源を活かした地域課題の研究、社会活動を通じた実践的な教育など、幅広く議論し、魅力ある大学と実践の場となる魅力ある地域を実現していきたい。



美作学園の店「みまっぱぶらざ」がオープン。学生と地域を結ぶ拠点として期待される。

## 6 多様な教育機会の充実

具体的に何をやる？

- 東京学芸大学との共同研究で開発された学習支援システム「AIドリル教材」を全小中学校に導入
- 津山の歴史・伝統・地域などを学ぶ「つやま郷土学」を小中学校すべての学年で実施
- それぞれの障害に応じた適切な指導・支援を行う体制整備として、特別支援教育推進センターへ県内で初めて特別支援教育ナビゲーターを2名配置

議会での声

**問** 東京学芸大学と共同開発し、市内全校に導入したAIデジタル教材の特徴は？

**答** ICT学習サービスで、子どもが主体となって取り組めるもの。個々の児童生徒の理解度に応じて、AIが最適な問題を選択し出題する機能や、個別の学習履歴を一覧化し教員が管理できる機能など、各学校における個別最適な学習を支援できる内容となっている。



市内全校にAIデジタル教材を導入

## 8つのビジョン!議会はどう見た？

### 3 雇用の安定と定住

具体的に何をやる？

- 新たな産業団地の整備について検討を進める
- 地域企業の魅力を知る機会として「つやまエリアオープンファクトリー」「高校生向け企業ガイダンス」を開催

議会での声

**問** 新たな産業団地の適地調査について、業務委託料500万円が予算化されているが、どのような条件で適地調査を行うのか？

**答** 造成環境、交通アクセス、事業に必要なインフラの有無、災害リスクや開発コストなど、様々な見地からの評価が必要と考えている。今年度実施する適地調査については、候補地の抽出とコスト面など整備に係る課題整理を行う。



大和ハウス工業株式会社と企業誘致に関する連携協定を結んだ。地域の雇用創出などが期待される。

### 4 地域産業の発展

具体的に何をやる？

- 津山市IoTラボを拠点として、5Gのメリットを活かしたソリューション開発を促進
- 脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギー導入可能性調査を実施
- 持続可能な農業に向けてスマート農業機械の導入支援等を実施

議会での声

**問** 豊富な森林資源である木を活かした「ウッドプラスチック」による高付加価値製品の開発など、林業の活性化と脱炭素に取り組むまちづくりはできないか？

**答** 本市では久米産業団地に誘致した企業が「養生用敷板」や「物流用パレット」などを製造している。これまで森林に放置されていた未利用材をエネルギーやウッドプラスチック製品として活用することで、林業活性化や脱炭素社会へつなげたい。



豊富な森林資源を活用した脱炭素の取組は？